研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-131		19-015	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門　三浦克之

題名（原題／訳）

Association between maternal alcohol consumption during pregnancy and risk of preterm delivery: the Japan Environment and Children's Study.

妊娠期の母親の飲酒と早産の関係：the Japan Environmental and Children's Study

執筆者

Ikehara S, Kimura T, Kakigano A, Sato T, Iso H; Japan Environment Children's Study Group.

掲載誌

BJOG. 2019 Nov;126(12):1448-1454. doi: 10.1111/1471-0528.15899.

キーワード	PMID
飲酒量、妊娠、時期、早産、コホート研究	31386246

要　旨

背景と目的：

日本人を対象にした妊娠時期別の母親の飲酒と早産のリスクについての報告はない。そこで今回、妊娠中の 3 期間（1 期：1-3 ヶ月、2 期：4-6 ヶ月、3 期：7-9 ヶ月）において飲酒が早産に与える影響を 94,349 人の妊娠女性を対象としたコホート研究にて調査した。

方法：

対象者には、1-3 期の飲酒に関する情報の他、病歴、社会経済的状況、喫煙、身体活動、精神状態等を調査した。飲酒に関しては飲酒歴、頻度やアルコール飲料の種類、量、禁酒の有無や時期を調査した。飲酒量はアルコール飲料の種類別にエタノール量をグラム換算し、1 回の摂取量と頻度を積算して算出し、4 分類した（エタノール摂取量/週：なし［なし］、1-149g［少量］、150-299g［中等量］、300g 以上［多量］）。また、早産の発生は診療録を参照して収集した。その後、1-3 期において飲酒量と早産リスクの関係を調査した。オッズ比はなし群を基準としてロジスティック回帰分析を用いて算出した。

結果：

2-3 期では飲酒は早産のリスク増加と関係したものの 1 期では関係しなかった。2-3 期の多量飲酒は飲酒なしと比較して早産リスクが 4 倍となった（OR 4.52; 95%CI 1.68-12.2）。少量飲酒は早産リスクが低下する傾向が認められた（OR 0.78; 95%CI 0.60-1.00）。

結論：

妊娠 2-3 期における多量飲酒は早産リスクの上昇と関連していた。